

【共通】汎用的能力要素の学修到達目標に対する学修成果の評価指標

到達目標の詳細は、「キャンパスライフハンドブック」を参照。

※レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。

【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】(態度・志向性)	マイルストーン			キャップストーン Level 4
	ベンチマーク Level 1	Level 2	Level 3	
<p>1) 自己意識を持って意見や立場を理解し、自律的意識をもって協調する態度を身につけることができる。</p> <p>① 自分の意見を自律的に分かりやすく人に伝えることができる。</p> <p>② 相手の意見を丁寧に聴き、意見の違いや立場の違いを理解して協調した対応ができる。</p>	<p>小グループの活動のなかで、十分ではないが自分の思いや考えを伝えようとする。相手の背景や立場にたった理解や、話すときの表現を工夫するまで至らないが、意見をきちんと傾聴することはできる。</p>	<p>小グループの活動のなかで、自分の考えを伝え、また相手との違いを理解することができる。自らの発言の責任と、相手に配慮して協調した対応は少しはできる。主体的に自分の思いや考えを、表現方法を工夫し、効果的に相手に伝えよう努めている。</p>	<p>集団的活動のなかで、立場の違いや状況を適切に判断して相手の思いや考えを傾聴、理解し、共感することができる。必要に応じて配慮する態度がとれ、自分の発言や行動に責任を伴うことについて十分でないが理解できている。主体的に自分の思いや考えを、表現方法を工夫し、効果的に相手に伝えることができる。</p>	<p>授業内外の組織・集団的活動のなかで、立場の違いや状況を適切に判断して相手の思いや考えを傾聴、理解し、共感することができる。必要に応じて配慮する態度がとれ、また自分の発言や行動に責任を伴うことを理解したうえで、主体的に自分の思いや考えを、表現方法を工夫し、効果的に相手に伝えることができる。</p>
<p>2) 社会規範に沿った倫理観をもち、社会の一員としての責任をもつことができる。</p> <p>① 自己の良心と社会規範に沿った倫理観の下での対応ができる。</p> <p>② 社会のルールや人との約束を守って社会の一員として責任を持って立ち居振る舞い対応ができる。</p>	<p>関連法令を理解し遵守している。人との約束などについて守る程度は守れている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることを認識しはじめたところである。</p>	<p>関連法令を理解し遵守している。交わした約束などについて守るよう努めている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることをある程度認識、理解でき、一部は実際に責任を持った行動がとれる。</p>	<p>関連法令を理解し遵守している。交わした約束などについて守るよう努めている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることを認識、理解でき、実際に責任を持った行動がとれる。</p>	<p>関連法令を理解し遵守している。交わした約束などについて、十分なコミュニケーションを図ったうえで、きちんと守っている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることを認識、理解でき、実際に責任を持って世界環境に対して世界的視点と備え、自己の良心に基づいて社会規範に沿った責任行動がとれる。</p>
<p>3) 将来目標に向けた自立的志向、ライフスタイルに応じた生涯学習志向を持つことができる。</p> <p>① 社会規範に沿った基本的な生活習慣や、自己の健康・体力を管理することができる。</p> <p>② ストレスの発生源に対して自律的かつ柔軟に対応し、危機管理を行うことができる。</p> <p>③ 自主的に将来の目標に向かって自立学習をすることができる。</p>	<p>日常生活の基本的な管理はできており、社会規範に沿った自己のライフスタイルについて考え始めている。自分のストレスを察知し、十分でないが、これ以上蓄積しないよう行動することができる。授業で要求されることの先を考え、知識を自立的に追及することに興味を持つことができる。学習内容や日常の出来事について、過去の学修・経験を浅いレベルで再検討できる。</p>	<p>日常生活の習慣、健康維持をある程度管理できており、社会規範に沿って自己のライフスタイルがイメージできる。普段に自分のストレス発生源を意識し、様々な状況下で変化するための対処はでき、自分に合った方法で解消している。授業で要求されること以上に、関係する知識を追求し、自立的に学習経験を追及することに興味をもてる。学習内容や日常の出来事について、以前よりいかに広い見方ができ、過去の学修・経験をある程度の深さで再検討できる。</p>	<p>日常生活の習慣、健康維持を積極的に管理できており、社会規範に沿って自己のライフスタイルがイメージできている。普段に自分のストレス発生源を意識しており、自分に合った方法で解消しており、変化する環境のなかで生じるストレスへのある程度の対処できている。授業で追求されること以上に、しっかりと付加的な知識を追求し、自立的な教育経験を能動的に追及する。教育的・日常的出来事について以前より広い見方を示し、過去の学修・経験を深いレベルで再検討している。</p>	<p>日常生活の習慣、健康を維持・向上させるために積極的に、かつ計画的継続的に管理しており、社会規範に沿って自己のライフスタイルをイメージできている。普段のストレスや変化する環境の中で生じるストレスの発生源を意図的に把握しており、自分に合った方法で解消または上手に付き合うことで自己管理している。教育的な興味と追及は、授業で要求されること以外にもあり、自発的に学習している。過去の学修・経験を深く振り返って、教育的・日常的出来事について見方を広げ、将来の目標や計画に向けて、長期間にわたって知識や経験を自立的に追及している。</p>
【教養ある社会人としての基礎力】(知識・理解)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
<p>1) 人文科学、他文化や異文化に関する知識を身につけ、人間性への理解認識を深めることができる。</p> <p>① 人文科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。</p> <p>② 多文化や異文化に対する認識と理解を持って知識を身につけることができる。</p>	<p>修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度が、概ね 60%以上ある。1科目以上の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、与えられた課題はきちんとこなすことができる。まだ専門分野や社会と関係付けた考えができていないが、知識として内容はきちんと身に付けた。実際の認識は浅いと思うが、物事に多面的な関係性があることは分かる。他者の文化的背景を踏まえた言動はほとんどできていないと感じる。</p> <p>※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。</p>	<p>修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度が、概ね 70%以上ある。複数の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、与えられた課題はきちんとこなすことができる。身に付けた学修内容は、専門分野や社会との関係性がある程度は分かるので、授業以外で学修内容を日常で少しは使用することができる。物事の多面性と多様な関係性、また学んでいない他の分野や事柄との結びつきに少しは気付くことができるので、少しは考えて他者への言動の配慮ができる。</p>	<p>修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度が、概ね 80%以上ある。複数の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。身に付けた学修内容は、その授業以外に、専門とする分野や社会生活との関連性を把握できている。関連する事柄に対する言動は、場面に応じて学修した内容を使用することができる。物事の多面性と関係性、また学んでいない他の分野や事柄との結びつきが理解できるので、他者への言動の配慮ができる。</p>	<p>修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度が、概ね 90%以上ある。複数の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。身に付けた学修内容は、その授業以外に、専門とする分野や社会生活との関連性を理解している。関連する事柄に対する言動は、場面に応じて学修した内容を使用することができる。物事の多面的な関係性があること、また学んでいない他の分野や事柄との結びつきに気づき、他者への言動の配慮や働きかけができる。人間性の更なる理解を深めるために自ら学びを深めており、日常に活かしている。</p>
<p>2) 社会科学・自然科学に関する知識を身につけ、物事への理解認識を深めることができる。</p> <p>① 社会科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。</p> <p>② 自然科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。</p>	<p>修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。少なくとも1科目以上から社会科学・自然科学に関する内容を学修している。履修科目の授業や与えられた課題を評価される程度にこなしている。まだ専門分野や社会と関係付けた考えができていないが、知識として内容はきちんと身に付けた。</p> <p>自然や社会的現象について、情報が意味するものとは関連した解釈・結論を導くこともあるが、数学的形式の情報説明を試みている。結論にまで結びついてはいるが、データの量的分析を初歩的な判断根拠として使用している。単純な情報の変換は完遂できる。</p> <p>※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。</p>	<p>修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。少なくとも1科目以上から社会科学・自然科学に関する内容を学修している。履修科目の授業や与えられた課題を評価される程度にこなしている。身に付けた学修内容は、専門分野や社会生活との関連性があること、学んでいない他の分野の関心が少しはある。関連する物事に対する発言には、時折学修した内容を用いている。また物事の理解を深めるための教養の必要性を感じている。</p> <p>自然や社会的現象について、計算や単位などの小さいミスはあるが、数学的形式の情報がある程度正確に説明できる。データの量的分析を、直感やひらめきを伴わない判断根拠として使用し、結論を導き出すことができる。情報の変換を完遂でき、その結果である科学・数学的表現はある程度は正確に使用できる。</p>	<p>修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。複数科目から社会科学・自然科学に関する知識の修得をこなしている。履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなしている。身に付けた学修内容は、その授業以外で、専門とする分野や社会生活との関連性を理解している。物事に多面的な関係性があることを認識し、学んでいない他の領域への関心が少なからずあり、自ら部分的に理解を深めている。関連する物事に対する発言には、学修した内容を活かしている。また物事の理解を深めるための教養の必要性を認識しており、偏った見方ではあるが理解認識を深めている。</p> <p>自然や社会的現象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明できる。データの量的分析を、確かな判断根拠として使用でき、結論は筋が通り適切である。適切な情報を適切な科学・数学的表現に変換できる。</p>	<p>修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。社会科学・自然科学について、幅広く学んでいる。履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなしている。身に付けた学修内容は、その授業以外で、専門とする分野や社会生活との関連性を認識し、日常生活に転用・応用している。物事に多面的な関係性があることを認識しており、学んでいない他の領域への関心を持って、自ら幅広い視野をもって理解を深めている。関連する物事に対する発言内容には、学修した内容を活かしている。また物事の理解を深めるための教養の必要性を認識し、探求心をもって理解認識を深めている。</p> <p>自然や社会的現象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明でき、これを土台とした適切な推論を立てることができる。データの量的分析を、思慮深く判断し使用するができ、結論は入念で洞察に富むものである。適切な情報をさらに深い理解に寄与するような方法で、洞察に富んだ科学・数学的表現に巧みに変換できる。</p>
<p>3) 将来社会生活・職業生活に向けた基礎知識を身につけ、生活での多様な役割や意義・関連への理解を深めることができる。</p> <p>① 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていくことができる。</p> <p>② 職業生活・社会生活に必要な基本的な常識を身につけることができる。</p>	<p>履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。将来の社会生活・職業生活にとって、一般教養・常識が必要であることをあまり意識していない。学習内容ほか新聞記事やニュースなどの日常的話題や基礎知識と、実際の自分との関連性を時々考えることがある。</p>	<p>履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。将来の社会生活・職業生活にとって、一般教養・常識が必要であることを理解している。個々の知識の関連性や自己との関係性について意識している。授業内容、新聞記事や日々のニュースなどの日常的話題から、一般常識・教養に自分との関連性のある基礎・汎用的な知識に関心を持っており、将来関係する基礎知識の必要性を認識している。</p>	<p>履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。将来の社会生活・職業生活にとって、一般教養・常識などの汎用的知識が必要であることを理解している。個々の知識の関連性や自己との関係性を理解するに足っていない。授業内容、新聞記事や日々のニュースなどの日常的話題から、一般常識・教養に自分との関連性のある基礎・汎用的な知識に関心を持っており、将来関係する基礎知識の必要性に気づき、部分的に知識の獲得に努めている。</p>	<p>履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすこと、自己との関係性を改めて明確な役割や意義を見出し理解を深めている。将来の社会生活・職業生活にとって、一般教養・常識などの汎用的知識が必要であることを理解しており、授業外での活動で教養を深めている。授業内容、新聞記事や日々のニュースなどの日常的話題において、一般常識・教養の自分との関連性を認識し、日頃から知識を獲得している。</p>
【社会人としての汎用的能力】(技能・表現)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
<p>1) 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。</p>	<p>修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。授業の課題をこなすことができる。語学力の4要素(読み・書き・聞き・話す)のうち少なくとも1つは日常活用において不自由ないレベルにある。学修は授業のなかで完結している。日常に活用するまででないが、授業外の活動で部分的に活用している。</p> <p>テキストの情報を適切に捉え、言い換えや要約することができる。文章作成の課題に対し、最低限の注意ははらうことができる。用語法を誤ったりするが、基本的構成や提示において一貫した体系を使うように気をつけている。話において、中心的なメッセージは推測してもらえ、プレゼンテーションは構造的なパターンを部分的にはつくれる。自分の話し方は、まだ相手の理解の妨げとなつていくと考えられる。</p> <p>※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。</p>	<p>修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。行われた分析は、問題の完全な解決をするために要求された分析の一部分は示すことができる。論拠は整理することができるが、その整理は、重要なパターン、違い、類似性を明らかにするには十分とは言えない。課題の事象に対し、一般的結論は導ける。情報の変換は完遂できる。結果である科学・数学的表現(式、グラフ、図、表、言葉)は部分的には適切あるいは正確に表現できる。</p>	<p>修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。授業の課題をこなすことができる。語学力の4要素(読み・書き・聞き・話す)のうち 3 つは日常活用において不自由ないレベルにある。継続的ではないが、学修は授業内だけでなく、関心をもって学修・活用に努めている。</p> <p>テキストの情報に対して、より複雑な推論を行うために、一般的及び特定の知識を複数に用いる。与えられた課題に明確に焦点をあてており、特定の学問や文章作成課題に求められる重要なルールを、一貫性をもって使用できる。文章の誤りは減少しない。話において中心的メッセージを明確に伝えることができ、プレゼンテーションは一貫した構造的なパターンでつくれることができる。自分の話し方によって、相手に興味深さを与えることができる。</p>	<p>修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。行われた分析は基本的に全て成功しており、十分に問題解決できる。また、分析プロセスは明快である。論拠を整理して総合的に扱い、問題の焦点に関連する洞察に富んだパターン、違い、類似性を明らかにすることができる。結論は、得られた結果から、論理的に既知の事柄のことから推定することができる。適切な情報を、さらに進んだ、あるいはさらに深い理解に寄与するような方法で、洞察に富んだ科学・数学的表現に巧みに変換できる。</p>
<p>2) 自然や社会的現象について、シンボルを活用して分析、理解し、表現することができる。</p>	<p>修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。計算などの分析を試みている。論拠を並べることができるが、整理し、問題の焦点と関連付けはしていない。結論はあいまいで、筋が通らないことがある。単純に情報の変換は完遂できる。</p> <p>※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。</p>	<p>修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。行われた分析は、問題の完全な解決をするために要求された分析の一部分は示すことができる。論拠は整理することができるが、その整理は、重要なパターン、違い、類似性を明らかにするには十分とは言えない。課題の事象に対し、一般的結論は導ける。情報の変換は完遂できる。結果である科学・数学的表現(式、グラフ、図、表、言葉)は部分的には適切あるいは正確に表現できる。</p>	<p>修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。行われた分析は、問題の完全な解決をするために要求された分析の一部分は示すことができる。論拠は整理することができるが、その整理は、重要なパターン、違い、類似性を明らかにするには十分とは言えない。課題の事象に対し、一般的結論は導ける。情報の変換は完遂できる。結果である科学・数学的表現(式、グラフ、図、表、言葉)は部分的には適切あるいは正確に表現できる。</p>	<p>修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。行われた分析は基本的に全て成功しており、十分に問題解決できる。また、分析プロセスは明快である。論拠を整理して総合的に扱い、問題の焦点に関連する洞察に富んだパターン、違い、類似性を明らかにすることができる。結論は、得られた結果から、論理的に既知の事柄のことから推定することができる。適切な情報を、さらに進んだ、あるいはさらに深い理解に寄与するような方法で、洞察に富んだ科学・数学的表現に巧みに変換できる。</p>
<p>3) 将来社会生活・職業生活に必要な基礎的知識を身につけ、問題を発見し解決することができる。</p> <p>① 情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。</p> <p>② 情報や知識を複眼的、論理的に分析して物事を考え、その結果を文書や発言として表現できる。</p> <p>③ 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。</p> <p>④ 職業生活・社会生活に必要な基本的な所作やマナー、文章作成。必要に応じた技能検定資格等を身につけることができる。</p>	<p>情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICT(情報通信技術)の基本的ツールを、十分ではないが利用することができる。情報は、自分の偏った見方から収集しており、また系統立ててまとめまでには至らないと言える。あるいは、課題の意図に沿わない情報を含めている。課題に対する結果の内容は、論理性がなく、あいまいである。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付けたが、授業外でわずかに転用・応用できている。</p>	<p>情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICTの基本的ツールを十分に利用することができるが、効果的に活用できているとは言えない。収集された情報は、ある一定の範囲から収集されており、系統立てられるものである。結果の内容は、課題の意図に沿ってある程度までまとまりをもって整理できている。文章には部分的に論理性を欠く内容が含まれる。興味まで至らないが、課題解決のなかから、自己の行動の範囲で問題を見出すことが少しはできる。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付け、部分的だが授業外で転用・応用できている。</p>	<p>情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICTの基本的ツールを十分に利用することができる。効果的に活用できる。収集された情報は、文脈に関連する範囲をある一定の深さで収集し、系統立てることができる。結果の内容は、課題の意図に沿ってある程度の深さをもって論じることができ、文章は論理性があり、明確にできる。課題解決のなかから、関連する情報との関係性から問題を見出し、解決を試みることができる。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付け、授業外でも応用できている。授業外に諸々の技能検定資格等について、今後の必要性を感じており、諸々の資格取得を考えている。</p>	<p>情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICTの基本的ツールを十分に利用することができる。効果的かつ発展的に活用できる。収集された情報は、文脈に関連する範囲を十分な深さで収集し、系統立てることができる。結果の内容は、課題の意図に沿って十分な深さをもって論じており、文章は論理性があり、明確にできる。課題解決のなかから、関連する情報との関係性から諸問題を発見し、解決策を見出すことができる。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付け、授業外にも応用するほか、発展的に学んでいる。授業外の諸々の技能検定資格等において、今後の必要性を感じ、実際に資格取得に向けた学修を自ら行っているか、あるいは取得している。</p>
【地域生活を支援し、創造する力】(行動・経験・創造的思考力)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
<p>1) 物事に進んで取り組み、他人との協調のなかで行動することができる。</p> <p>① 物事に進んで取り組み行動することができる。</p> <p>② 他人に働きかけを行い、巻き込みながら行動することができる。</p>	<p>与えられた課題や活動に参加することができる。チームの考えや意見などを共有するが、受動的に受入れている。他のメンバーから促されることで発言でき、意見を傾聴することでグループ活動に参加できる。</p>	<p>与えられた課題や活動に参加することができる。自らのその成果は徹底的にプロジェクトを前進させるものである。対立する考えや意見から離れ、共通する基盤や当座の課題に目を向け直すことができる。他のメンバーの見方を言い直すか、明確にその質問をすることなどで、話し合いを促進することができる。</p>	<p>与えられた課題や活動に参加することができる。自らのその成果は徹底的、包括的であり、プロジェクトを前進させるものである。対立する考えや意見を認識し、把握したうえで取組みを続けることができる。他のメンバーの貢献を建設的に積み重ね、統合するなどして、話し合いを促進することで、他のメンバーをチームの活動に参加させることができる。</p>	<p>与えられた課題や活動に参加することができる。自らのその成果は徹底的、包括的であり、プロジェクトを前進させるものである。他のメンバーが与えられた課題を自分と同じレベルで完遂できるように率先して助けることができる。破壊的な対立する考えや意見において、直接言及し、チーム全体の結束を効果的に高めるやり方で、対立に取組み解決することを建設的に助けることができる。参加していないメンバーに気づき、参加を促すとともに、他のメンバーの貢献を建設的に積み重ね、統合するなどして、話し合いを促進することで、チームの活動に参加させることができる。</p>

2) 目的を設定し、将来設計に沿って確実に行動することができる。	与えられた課題や活動に対して目的を理解し、取り組むことができる。	与えられた課題や活動に対して目的を理解し、取り組むことができる。明確な自らの目的はまだ見出せていないが、課題や活動のなかに自己の将来ビジョンとのつながりを少しは考えられる。	与えられた課題や活動に対して目的を理解し、取り組むことができる。行動の証を示せるまででないが、課題や活動のなかに自己の将来ビジョンとのつながりを見出し、明確な自らの目的を設定できている。	与えられた課題や活動の目的を理解し、取り組むことができる。課題や活動のなかに自己の将来設計とのつながりを見出し、明確な自らの目的を設定でき、それに対する行動の証を示すことができる。
3) 獲得した知識、技術・技能、態度等を総合的に活用し、経験から新しい価値や課題を見出し解決することができる。 ① 経験を基にさらに新しい価値を生み出すことができる。 ② これまでに獲得した知識、技術・技能、態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。	与えられた課題や活動をその授業の学修内容だけで解決している。経験や知識は、その授業以外のことは連続しない個々のものとして捉えている。	与えられた課題や活動をその授業以外の経験を含めて適用し解決できる。その課題からは、自らの考えや価値、新たな課題を見出すことができる。個々の経験や知識について、連続する総合的な見方をするまでには至らない。	与えられた課題や活動をその授業以外の経験を含めて適用し解決できる。その課題から自らの考えや価値、新たな課題を見出している。個々の経験や知識について、連続する総合的な見方ができるが、自ら立てた課題を解決できるまでには至っていない。	与えられた課題や活動をその授業以外の経験を含めて適用し解決できる。その課題から自らの考えや価値、新たな課題を見出している。個々の経験や知識が連続する総合的な見方ができている。自ら立てた課題の解決がされており、新しい価値を見出している。

【食物栄養学科】専門的能力要素の学修到達目標に対する学修成果の評価指標

到達目標の詳細は、「キャンパス・ライフ・ハンドブック」を参照。

※到達レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。

【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】(態度・志向性)	マイルストーン			キャップストーン Level 4
	ベンチマーク Level 1	Level 2	Level 3	
1) 栄養士としての自立の心構えを持ち主体的に考え取り組むことができる。	栄養士としての自立、栄養士の仕事内容や将来自分がどういった栄養士になりたいかを、まともなく少しは考えることができる。実験・実習については指示に従って予習等ができるが、自ら学習することや、研究の進め方はわからない。	栄養士としての自立、栄養士の仕事内容や自分がどういった栄養士になりたいのかなどを漠然とだがイメージできる。実験・実習の内容を予習・復習で理解しようと努力しているが、研究については十分考えるに至らない。	栄養士としての自立の心構えを部分的に言える。各方面から栄養士の仕事内容について情報を集めて、将来自分の栄養士像を具体的にイメージできる。実験・実習において予習・復習をしており、授業の内容が理解できる。研究は他者のアドバイスにより進めることができる。	栄養士としての自立の心構えをしっかり言える。将来自分がなりたい栄養士像を具体的に言える。また必要な知識や技能を授業以外に表すことができる。課題発見・解決に向けて主体的に予習・復習並びに研究を進めることができる。
2) 健康と環境や社会に関心を持つことができる。	健康と環境や社会への関心が少しはあるが、健康と環境意識は低く、社会への関心はあまりない。また食物・栄養に関する社会的問題等については、少しは気になる。	健康と環境や社会への関心を持っているが、まだ十分な理解できていない。食物・栄養、食品の流通と消費と一連の流れについて、自分自身の食に置き換えて体験できており、関心を深めている。	健康と環境や社会に関心があり、食物・栄養に関する社会的問題に興味をもって、食品の流通と消費について考えることができる。食生活上の安全性の確保のあり方に関心があり、深めることができる。	健康と環境や社会に関心を持っており、食物の栄養はもちろんのこと、生産から流通と消費までの食事情について理解を深めているものがある。食生活上の安全性の確保のあり方に深い関心があり、自分自身の食環境を見直していることができる。
3) 他者と協調性を持つことができる。	少しは自己管理ができていると思うが、不十分なために、約束や規則の遵守、時間の使い方など、他者に不利益を与えることがある。その責任は感じる時がある。	集団の中で他者との協調性を意識した自己管理がある程度できている。他者に対して不利益を与えることへの責任を感じており、自己管理能力を身につけようと努力している。	十分に自己管理しており、集団の中で協調性を持って行動できることを示せる。他者に不利益を与えることなく責任を持った行動ができることを示せる。	十分に自己管理でき、集団の中ではリーダー格として積極的に他者に声をかけるなど模範となる行動ができる。
【教養ある専門職業人としての基礎力】(知識・理解)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
1) 社会生活と健康、人体の構造と機能、食品と衛生、栄養と健康についての基本となる知識と理解を身につける。 ① 社会生活と健康について知識と理解を身につける。 ② 人体の構造と機能において、生活活動や環境変化の適応について理解する。 ③ 食品の各種成分の栄養特性、食品の衛生管理について理解する。 ④ 栄養とは何か、その意義と栄養素の代謝及び生理的意義を理解する。 ⑤ 人間の一生であるライフステージ別の栄養について習得する。 ・各ライフステージにおける生体の生理学的特徴について理解する。 ・各ライフステージに必要な栄養とその基本的な評価・判定(栄養アセスメント)について理解する。 ⑥ 各種疾患における基本的な食事療法について習得する。 ・疾病の成り立ちについて理解する。 ・疾病別の栄養管理(食事療法)について理解する。	下記の項目すべてに該当していること。 ① 社会生活と健康について公衆衛生の定義をある程度は理解している。 ② 人体の構造と機能についてはほぼ理解しているが、運動がもたらす身体への影響や効果についての知識は十分でない。栄養素の代謝についてあまり理解できていない。 ③ 食品の基礎的事項と栄養機能をほぼ理解している。加工や調理による食品成分の変化についての知識は十分でない。 ④ 各栄養素の役割と必要性についてほぼ理解している。 ⑤ 各ライフステージにおける生体の生理学的特徴について理解できているが、必要な栄養とその基本的な評価・判定(栄養アセスメント)については理解しつづである。 ⑥ 疾病の成り立ちと疾病別の栄養管理について少しは理解している。	下記の項目すべてに該当していること。 ① 社会生活と健康について公衆衛生の定義を理解しているが、疫学的因果関係を分析・予防法までは理解に至っていない。 ② 人体の構造と機能についてはほぼ理解しているが、運動がもたらす身体への影響や効果についての知識は不足している。栄養素の代謝についてほぼ理解している。 ③ 食品の基礎的事項と栄養機能をほぼ理解し、加工や調理による食品成分の変化を概ね認識している。食品の安全性と食品衛生、食中毒予防についても概ね理解している。 ④ 各栄養素の役割と必要性、栄養学の意義についてほぼ理解している。 ⑤ ライフステージにおける生体の生理学的特徴について理解しており必要な栄養とその基本的な評価・判定(栄養アセスメント)に結びつけて考えることができる。 ⑥ 疾病の成り立ちを概ね理解し、適切な栄養管理と結びつけて考えることができる。	下記の項目すべてに該当していること。 ① 社会生活と健康について知識と理解ができているため疫学的因果関係を分析・予防法を考慮することで国民の健康を把握し維持増進に努めることができる。 ② 人体の構造と機能と運動がもたらす身体への影響や効果を理解している。栄養素の代謝について具体的に述べることができる。 ③ 食品の基礎的事項と栄養機能が理解でき、加工や調理による食品成分の変化を認識することができる。食品の安全性についても食中毒予防についても理解している。 ④ 各栄養素の役割と必要性、栄養学の意義について理解している。 ⑤ ライフステージにおける生体の生理学的特徴について理解しており必要な栄養とその基本的な評価・判定(栄養アセスメント)に結びつけて考えることができる。 ⑥ 疾病の成り立ちを正確に理解しており、適切な栄養管理を考慮することができる。	
2) 給食の運営において、給食業務実施のために必要な食事計画や調理を含めた技術を修得する。	基本的な調理用語は断片的に理解できる。調理に必要な知識と技術を少しは身につけている。また、料理の特色や献立の種類、構成(組み立て方)について少しは理解できるが、四季折々の食材を用いた食事計画は自らではできない。給食業務に必要な知識と技術は断片的に身につけている。	基本的な調理用語についてある程度は理解できる。調理に必要な知識は不足しているものの、技術はほぼ身につけている。また、料理の特色や献立の種類、構成(組み立て方)について部分的に理解できる。四季折々の食材を用いた食事計画ができるが、時間を要する。給食業務に必要な知識と技術は部分的には身につけている。	基本的な調理用語が分かり、調理に必要な知識と技術はほぼ身につけている。また、料理の特色や献立の種類、構成(組み立て方)について一部理解できているところもあるが、四季折々の食材を用いた食事計画ができる。給食業務に必要な知識と技術がほぼ身につけている。	基本的な調理用語が分かり、調理に必要な知識と技術は十分身につけている。また、料理の特色や献立の種類、構成(組み立て方)を完全に理解しており、四季折々の食材を用いた食事計画ができる。給食業務に必要な知識と技術がきちんと身につけている。
3) 栄養の指導において個人、集団、地域における栄養指導の方法を修得する。	個人、集団、地域など対象者に合わせた栄養指導法の違いが理解できない。健康や食生活の問題に少しは関心があるが、その問題を解決する方法については考えるに至っていない。	個人、集団、地域など対象者に合わせた栄養指導法の違いがほぼ理解できている。健康や食生活の問題に関心はあるが、その問題を解決する方法については第三者のアドバイスがなければ考えることができない。	個人、集団、地域など対象者に合わせた栄養指導法の違いがほぼ理解できている。健康や食生活の問題に関心はあるが実践する力は不足している。	個人、集団、地域など対象者に合わせた栄養指導法の違いが理解できている。健康や食生活の問題に常に関心があり、その問題を解決する方法についても考え実践する力が身につけている。
【専門職業人としての汎用的能力】(技能・表現)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
1) 給食業務に関する処理能力を身につける。	栄養価計算はできるが時間がかかる。基本的な調理技術は十分に身につけている。栄養価やバランス、彩りを考慮した献立を作成できるが、かなりの時間を要する。味の組み合わせや食材費、作業工程などについてはまだ配慮できない。病態食への展開についてはその都度説明すれば理解できる。基本献立から病態食へ展開や、給食の運営を断片的に身につけている。	栄養価計算ができ、基本的な調理技術もほぼ身につけている。栄養価やバランス、彩りを考慮した献立を作成することはできるが、味の組み合わせや食材費、作業工程などについては配慮に欠ける。病態食について理解はできているが基本献立から病態食へ展開する力は不足している。給食の運営に必要な力はほぼ身につけている。	栄養価計算ができ、基本的な調理技術も身につけている。栄養価やバランス、彩り、味の組み合わせ、食材費、作業工程などを考慮した基本献立を作成することはできるが、基本献立から病態食への展開に時間を要する。給食の運営に必要な力は十分身につけている。	栄養価計算が確実にでき、基本的な調理技術も十分身につけている。また、栄養価やバランス、彩り、味の組み合わせ、食材費、作業工程などを考慮した基本献立を作成することができ、基本献立から病態食への展開もできる。給食の運営に必要な力を完全に身につけている。
2) 対象別に適切な栄養指導が出来る	対象者の実態把握、問題点を抽出できるが不足している。実態把握から浮かび上がった問題点を解決するために必要な情報を収集・整理するのに時間がかかり分析がうまくできない。対象者に応じた目標を設定することができるが具体的な指導計画を立案するまではできない。指導効果については考えることができない。	対象者の実態を把握できるが、問題点を抽出するまではできない。実態把握から浮かび上がった問題点を解決するために必要な情報を収集・整理することはできるが分析がうまくできない。対象者に応じた目標を設定して具体的な指導計画を立案することができるが、時間がかかる。指導効果については第三者のアドバイスがあれば客観的に判断し改善点を見つけることができる。	対象者の実態を把握し問題点を明確にできる。実態把握から浮かび上がった問題点を解決するために必要な情報を収集・整理・分析し、対象者に応じた目標を設定して具体的な指導計画を立案することができる。指導効果については客観的に判断し改善点を見つけることはできるが、改善し実践するまでには至らない。	対象者の実態を把握し問題点を明確にできる。実態把握から浮かび上がった問題点を解決するために必要な情報を収集・整理・分析し、対象者に応じた目標を設定して具体的な指導計画を立案することができる。また、指導効果についても客観的に判断することができ、問題があれば改善し実践することができる。
3) 文章作成力とプレゼンテーション力を身につけ、課題の発見とその解決に向けての行動力を養うことができる。 ① 課題を発見し、その解決に向けての行動力がある。 ② 文章作成力を身につける。 ③ プレゼンテーション力を身につける	下記の項目すべてに該当していること。 ① 対象者の状況を把握することはできるが、何が問題かまではわからない。 ② 実施した内容を記録し、レポートや実習日誌としてまとめることができるが、その内容には自信がない。 ③ グループ内で自分の考えをもつことができる。	下記の項目すべてに該当していること。 ① 対象者の状況を把握し、どこに問題があるのかがおおよそわかる。ただ、その解決のためにどうすればいいのか分からない。 ② 実施した内容を記録し、レポートや実習日誌としてまとめることができるが、その内容にはあまり自信がない。 ③ グループ内で自分の考えをもち、発言することができる。	下記の項目すべてに該当していること。 ① 対象者の状況を把握し、どこに問題があるのか、課題を見つけることができる。また、その課題を解決するために必要な情報を収集・整理、分析することができる。 ② 実施した内容をきちんと記録し、レポートや実習日誌としてまとめることができる。 ③ グループ内で自分の考えをまとめ、意見交換をすることができる。	下記の項目すべてに該当していること。 ① 対象者の状況を把握し、どこに問題があるのか、課題を見つけている。また、その課題を解決するために必要な情報を収集・整理、分析し、解決に向けて行動することができる。 ② 実施した内容をきちんと記録し、レポートや実習日誌としてまとめ、自信をもって提出することができる。 ③ グループ内で自分の考えをまとめ、積極的に意見交換をすることができる。他者の意見を聞き、自らの考えを深めることができる。
【地域生活を支援し、創造する力】(行動・経験・創造的思考力)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
1) 栄養士として洞察力、感性をいかした行動がとれる	学校行事に参加し、作品を作ることができる。	学校行事に参加し、作品を作ることができる。また、学外のコンテストにも興味をもつことができる。	学校行事に積極的に参加し、作品を作ることができる。また、学外のコンテストにも興味をもち、応募することができる。	学校行事に積極的に参加し、工夫を凝らした作品を作ることができる。また、学外のコンテストにも積極的に応募し、オリジナル料理を考えることができる。
2) 実践を通し栄養士として地域貢献できる力を身につける	学校行事や学外での食育活動の場に参加することができる。	学校行事や学外での食育活動の場に積極的に参加することができる。	学校行事だけでなく学外での食育活動の場に積極的に参加することができる。地域に必要な食育活動について考えることができる。	学校行事だけでなく学外での食育活動の場に積極的に参加することができる。地域に必要な食育活動とは何かを考え、行動することができる。
3) 他者と協調性をもって協働できる	グループ内で自分の考えをもつことができるが、他者に流されがちである。報告・連絡・相談の必要性はわかるが、十分にできているか自信がない。相手、場面に応じた接し方がわかりつづあ。	グループ内で自分の考えをもち、発言することができる。報告・連絡・相談ができる。相手、場面に応じた接し方を考えることができる。	グループ内で自分の考えをまとめ、他者と意見交換ができる。報告・連絡・相談ができる。相手、場面に応じた接し方を考え、行動することができる。他者から信頼してもらえるよう努力している。	グループ内で自分の考えをまとめ、他者と積極的に意見交換ができる。正確な報告・連絡と、必要に応じた相談ができる。相手、場面に応じた接し方を考えることができ、誰でもコミュニケーションがとれる。他者から信頼してもらえるよう努力している。

I 【主体的・自立的に行動できる 確かな人間力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
		Level 2	Level 3	
① 自己の心と体の状態を把握し、健康な生活管理を図ることができる。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを少しは持っている。健康な生活管理を少しは意識している。自分のライフスタイルについて少しはイメージできている。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを持っている。自分の健康について必要とする知識を少しは得ようとしている。日常の様々なストレスへの対処は十分でないが、自分のライフスタイルのイメージに合わせて健康な生活管理を意識して、少しは管理できている。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを持っている。自分の健康について必要とする知識を得て生活管理に努めている。自分のライフスタイルを把握しており、健康な生活習慣を意識して、少しは管理できている。日常の様々なストレスを理解しており、その改善に努めている。	自分の心と体の健康状態を理解して、健康維持のために規則正しい生活管理に努めている。将来展望のなかで、自分のライフスタイルを把握しており、生活習慣は継続して管理できている。日常の様々なストレスへの対処が十分できている。継続して良好な健康を維持できている。
② 自己の良心と社会の規範やルールに則って行動できる。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っているか、またはその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにしている。明らかな倫理的問題や社会的ルールは浅いが認識している。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っており、かつその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見を把握できる。明らかな倫理的問題や社会的ルールは認識しており、それらの関係性のある程度把握できている。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っており、かつその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見の前提や含意を述べることができ、不十分だがそれに対する自分の答えがある。倫理的問題や社会的ルールの背景を知っており、それらの複雑さや関係性を把握できている。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念とその由来を詳細に自己分析し、議論を深めて明確にしている。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見の前提や含意を述べることができ、それに対する自分の主張を合理的に、十分かつ効果的に答えられる。複雑な倫理的問題や社会的ルールが示されてもこれらを把握でき、それらの複雑さや関係性を理解して行動がとれる。
③ 主体的に、自らを律して行動するとともに、目標実現のために協調・協働して行動できる。	グループなどの集団的活動において、一員として考えを共有できる。分担する課題解決は締切までに完成できる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションあるいは肯定的な態度が示せる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。分担する課題は締切までに完成できる。その成果によって、グループの課題解決を前進させることができる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションあるいは肯定的な態度が示せる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。他の者への考えに基づいた代替的な解決法や行動計画を提案することができる。分担する課題を締切までに完成させることができる。その成果は徹底的で包括的であり、プロジェクトを前進させる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションを行い、肯定的な態度を示している。課題の重要さやチームワークへの貢献を表明し、チームを動機づけることができる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。代替的な提案の長所を明確にし、チームの前進を助けることができる。分担する課題を締切までに完成させることができる。その成果は徹底的で包括的であり、プロジェクトを前進させる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションを行い、肯定的な態度を示している。課題の重要さやチームワークへの貢献を表明し、メンバーに励ましや支援を与えることができる。
④ 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。	種々の市民的活動に参加したことは少しはある。自分のなかで諸活動の意味を少しは見つめ直すことができる。社会の一員として、周囲の人との関わりを持つよう心掛けている。	種々の市民的活動に参加したことがある。参加した活動は、教育の一環での参加であり、自分の学修成果となっている。活動への参加は、未だ市民意識の感覚からではないが、自分のなかで活動の意味を見つめ直すことを考え始めている。	種々の市民的活動に積極的に参加している。参加した活動は、教育の一環での参加であり、自分の学修成果となっている。活動への参加は、市民意識の感覚からであり、自分のなかで活動の意味を見つめ直し、何を学んだかをはっきり述べるようになる。	多様な市民的活動に積極的に、かつ継続的に参加している。参加した活動では、リーダーシップや役割をもって、自立的に参加している。参加した活動からは、自分の学修成果を得ている。活動への参加は、市民意識の感覚からであり、自分の行動について、目標設定や遂行への省察や分析を行い、何を学んだかをはっきり述べるようになる。
⑤ 生涯にわたって自律・自立して学習できる。	与えられた課題等を仕上げるることができる。授業の到達目標の先にある関連する知識を自ら追求することに興味を持てる。その探求レベルはまだ浅いと言える。	与えられた課題等を仕上げるることができる。授業の到達目標の先にある関連する知識を自ら追求することに興味を持てる。その探求では、成果を示すことができる。成果では、部分的だが考察し、授業外の異なる状況に応用することを少なからず述べている。	与えられた課題等に強い興味を持って探究することができる。仕上げることもできる。授業の到達目標の先にある関連知識を自ら探求している。これまでの学びの成果を振り返り、授業外の異なる状況に応用することができる。その成果を示すことができる。	与えられた課題等に強い興味を持って探究することができる。仕上げることもできる。授業の到達目標の先にある関連知識を自ら探求し、自己の能力を拡大する機会を授業以外にも設けて追求している。
II 【教養ある専門職業人としての 基礎力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
① 社会生活・職業生活にとって意味ある知識を獲得し、総合的に理解・使用することができる。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 60%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な能力の必要性を理解し、また将来の職業生活に向けて、専門以外の分野とのつながりに関して意識し始めている。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 70%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な能力の必要性を理解しており、また将来の職業生活に向けて、専門以外の分野とのつながりに関して意識し始めている。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 80%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な知識や技能の学修に努めており、日常生活において時折、総合的に知識を使用することができる。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 90%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、授業以外でも汎用的な知識や技能の獲得に自ら努めており、日常生活の場面で、総合的に活用している。
② 専攻する特定の学問分野における知識を体系的に獲得することができる。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 60%以上獲得できている。専門分野の個々の学修は最低限度達成している。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 70%以上獲得できている。専門分野の個々の学修はある程度達成しており、それらのつながりに関して体系的に理解し始めている。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 80%以上獲得できている。専門分野の個々の学修を達成しており、それらのつながりに関して体系的に理解している。専門とする学問分野に対し、自分の見方を少しは考えることができる。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 90%以上獲得できている。専門分野の個々の学修を達成しており、それらのつながりに関して体系的に獲得する必要性を理解している。専門とする学問分野に対し、自分の見方を明確にして、創造的に活用できている。
③ 上記知識体系を外部的視点で捉え直すことができるとともに、自己と関連付け洗練していくことができる。	自分が学んできた上記①②の知識において、生活経験と自分の興味とのつながりを見出し、学問的な関係性を把握している。修得した知識・技能を新しい状況で用いると試みている。	自分が学んできた上記①②の知識において、生活経験と学問的な知識との類似性や違いを比較し、自分とは異なる見方や考え方も認めている。修得した知識・技能を、新しい状況のなかで課題や問題点の発見や理解に用いることができる。	修学期間中に学んできた知識の枠組みを明確にするために、様々な状況のなかから生活経験の例を考えた発展的に活用することができる。修得した知識・技能を、新しい状況のなかで課題や問題点の発見や理解に用い、適用して応用することができる。	学問分野での理解を深め、自分の見方を広めるために、授業外の諸経験の間のつながりを意識深く統合できる。修得した知識・技能を、難しい問題の解決や、複雑な課題の探索のために、新しい状況でオリジナルな方法で適用して応用することができる。
III 【社会人としての汎用的能力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
① 確かな日本語に加え、一つ以上の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる。	修了学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。テキストの情報を適切に捉え、言い換えや要約することができる。文章作成の課題に対し、用語法を誤るが、ある最低限の注意をはらい、基本的構成や提示において一貫した体系を使っている。会話において、中心的なメッセージは何か伝えることができる。構成がなっていないが、プレゼンテーションはできる。話術は相手の理解の妨げとなっていないと考えられる。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。テキストの情報を評価し、文脈や目的について、基礎的な推論ができる。与えられた課題を自覚し、特定の学問や文章作成課題に求められるルールに、幾つかの誤りがあるが従うことができる。会話において、中心的なメッセージは基本的に伝えることができる。プレゼンテーションには構造的な構成が少しはできている。話術においては、まだ自信をもって話すことができていない。	修了学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。テキストの情報を対して、より複雑な推論を行うために、一般的及び特定の知識を使用している。与えられた課題に明確に焦点をあて、特定の学問や文章作成課題に求められる重要なルールを、一貫性をもって使用することができる。文章の誤りは減少しない。話において中心的メッセージは明確であり、プレゼンテーションには一貫した構造的な構成ができる。話術においては、相手と興味深く聞いてくれる。	修了学期末において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。テキストの情報を超える問題に対して、テキストが含意するものを認識している。与えられた課題に反応し、あらゆる要素に焦点をあて、特定の学問や文章作成課題に求められる広範なルールに細かな注意を向け遂行することができる。文章の誤りは殆どない。話において中心的メッセージは説得力をもっている。話術は洗練しており、プレゼンテーションは説得的である。相手の反応から自信を持って対応することができる。
② 自然や社会的現象について、図表等のシンボルを用いて分析、理解、表現することができる。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。自然や社会的現象について、科学・数学的形式の情報の解釈・結論を少しは説明ができる。結論にまで結びつかないことがあるが、データの量的分析を初歩的な判断根拠として使用できる。単純に情報の変換は完了することができる。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。自然や社会的現象について、小さなミスはあるが、科学・数学的形式の情報をある程度正確に説明できる。データの量的分析を、直感やひらめきを伴わない判断根拠として使用でき、十分でないが結論を導くことができる。情報の変換は完了することができるが、その結果である科学・数学的表現は部分的に適切あるいは正確である。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。自然や社会的現象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明することができる。データの量的分析を、確かな判断根拠として使用でき、結論は筋が通り適切である。適切な情報を適切な科学・数学的表現に変換することができる。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。自然や社会的現象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明でき、これを土台とした適切な推論を立てることができる。データの量的分析を、思慮深く判断して使用でき、結論は入念で洞察に富んでいる。適切な情報をさらに深い理解に寄与するような方法で、洞察に富んだ科学・数学的表現に巧みに変換することができる。
③ ICT(情報通信技術)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。	基本的な ICT 活用ができる。手当たり次第に情報にアクセスし、本質に欠けた情報検索をしている。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の 1 つは正確に使用できる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に際しては十分な ICT 活用ができる。単純な検索方略を用いて情報にアクセスし、限られたソースから情報を検索することができる。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の 2 つは正確に使用できる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に際しては十分な ICT 活用ができる。多様な検索方略で、関連する情報ソースから情報を検索することができる。検索を絞り込むことができる。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の 3 つは正確に使用することができる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に際しては効果的に ICT 活用ができる。十分検討した検索方略で、適切な情報ソースを効果的に使用し情報にアクセスすることができる。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の全てを正確に使用することができる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。
④ 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。	自分の見解を示す際に、現在の仮定に基づき、文脈の幾つかを同定し始めている。(選択された情報)ソースからの情報を、意図する目的まで到達できていないが、断片的に使用できる。	自分の見解を示す際に、仮定の幾つかを批判的に捉えることができ、重要な幾つかの関連性を同定することができる。自他の仮定・関連性に意識を向けている。ソースからの情報を発信し、組織化することができる。情報は統合されていないが、意図された目的はある程度は達成できている。	自分の見解を示す際に、自他の仮定や幾つかの関連性を同定することができる。ソースからの情報を発信し、組織化し、統合でき、意図された目的は達成できている。	自分の見解を示す際に、自他の仮定を体系的・方法的に徹底的に分析し、関連性を慎重に評価することができる。ソースからの情報を発信し、組織化し統合でき、意図された目的は完全に達成できている。
⑤ 問題を発見し、その解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題に的確に対応できる。	自ら問題を発見するには至らないが、指示に従って問題に対応することができる。	指示に従って問題に対応することができる。自ら問題を発見することができる。リサーチアクションやテーマの範囲を不完全に限定して、問題を発見し、鍵概念を決定できる。(選択された情報)ソースを概念と部分的に関連付け、リサーチアクションに答えることができる。	指示に従って、能動的に問題に対応することができる。自ら問題を発見することができる。リサーチアクションやテーマの範囲を十分に限定しており、問題を発見し、鍵概念を決定できる。ソースを概念と関連付けるか、リサーチアクションに答えることができる。	指示に従って、問題に対応することができる。リサーチアクションやテーマの範囲を効果的に限定しており、鍵概念は決定できる。ソースを概念と直接に関連付けるか、リサーチアクションに答えることができる。授業外の他の事柄に対して、自分に関係する問題を発見し、創造的に対応することができる。
IV 【地域生活を支援し、 創造する力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
① 上記 I～IIIの態度・志向性・知識・技能の知識を総合的に活用し、個人の職業生活及び社会生活のクオリティ向上を図ることができる。	自分のパフォーマンスを、成功が失敗かという一般的な記述で認識している。生活経験と、自分の興味との類似性や関連性が認められるアカデミックな文章やアイデアとのつながりを同定することができる。	自分の強みと課題を明確に表現し、別の文脈での有効性を高めている。生活経験とアカデミックな知識を、差異と類似性を判断するために比較し、自分とは異なる見方も認めることができる。	学修による自分の変化を正しく評価しており、複雑な文脈要因を認識している。学問分野の枠組みを明確にするために、様々な文脈から生活経験の例を効果的に選び、発展させている実例を示すことができる。	複雑な社会の下に置かれる将来の自分を現実的に思い描くことができる。学問分野での理解を深め、そして自分の見方を広めるために、生活経験や授業外経験などの諸経験とのつながりを意識深く統合していることが、実例で示すことができる。
② 地域での実践活動をもとに、上記 I～IIIの知識・技能・態度・志向性を総合的に活用し、自発的に地域課題を解決することができる。	ボランティアなどの市民的活動を体験しており、自分の経験によって得た事柄について十分ではないが示すことができる。グローバルな関心事に対し、自分の内面で少しは考えている。	市民(プレ社会人)としてはっきりとした態度をもって参加・活動できる。コミュニケーション力(プレゼンテーション力、傾聴力、対話力、話術等)の一つ以上の要素をきちんと備えている。グローバルな問題を構成している複雑な関係を検討し、社会的・文化的な影響への考えを少しは持っている。	市民的な活動において、態度を明確にし、目標をもって自立的に経験でき、その成果を示すことができる。相手との円滑なコミュニケーションがとれる。学問的な概念と枠組みを用いて情報を収集し、グローバルな問題に対する対応への探求を行うなかで、地域課題の解決のアプローチとの比較検討を行っており、課題に対する自分の判断を明確にしている。	市民的な活動において、態度を明確にし、目標をもって自立的に経験でき、その成果を示すことができる。変容する異なる状況においても円滑なコミュニケーションがとれる。学問的な概念と枠組みを用いて情報を収集し、グローバルな問題に対する対応への探求を行うなかで、地域課題の解決のアプローチとの比較検討を行っており、課題に対する自分の判断を明確にしている。
③ 上記 I～IIIの知識・技能・態度・志向性の総合的な知識を統合し、個人の人間性の高揚を高めていくことができる。	個々の学びについて断片的、あるいは浅いレベルで振り返っている。	これまで学んできたことの意味を多少は明確にし、以前(入学前)よりもある程度の視野を広げている。これまでの学びをある程度の深さで再検討している。	これまで学んできたことの意味を十分に明確にしており、以前よりも広い視野をもって深く振り返っている。自己の人間性の向上を図ることについて考えている。	これまでの学びを明確に参照し、異なる状況に革新的に応用することができる。これまでの学びを深く再検討することで、視野を変化させ、長期間にわたって自己成長・成熟を拡張するための基盤をもっている。